

傳文庫

壬午年

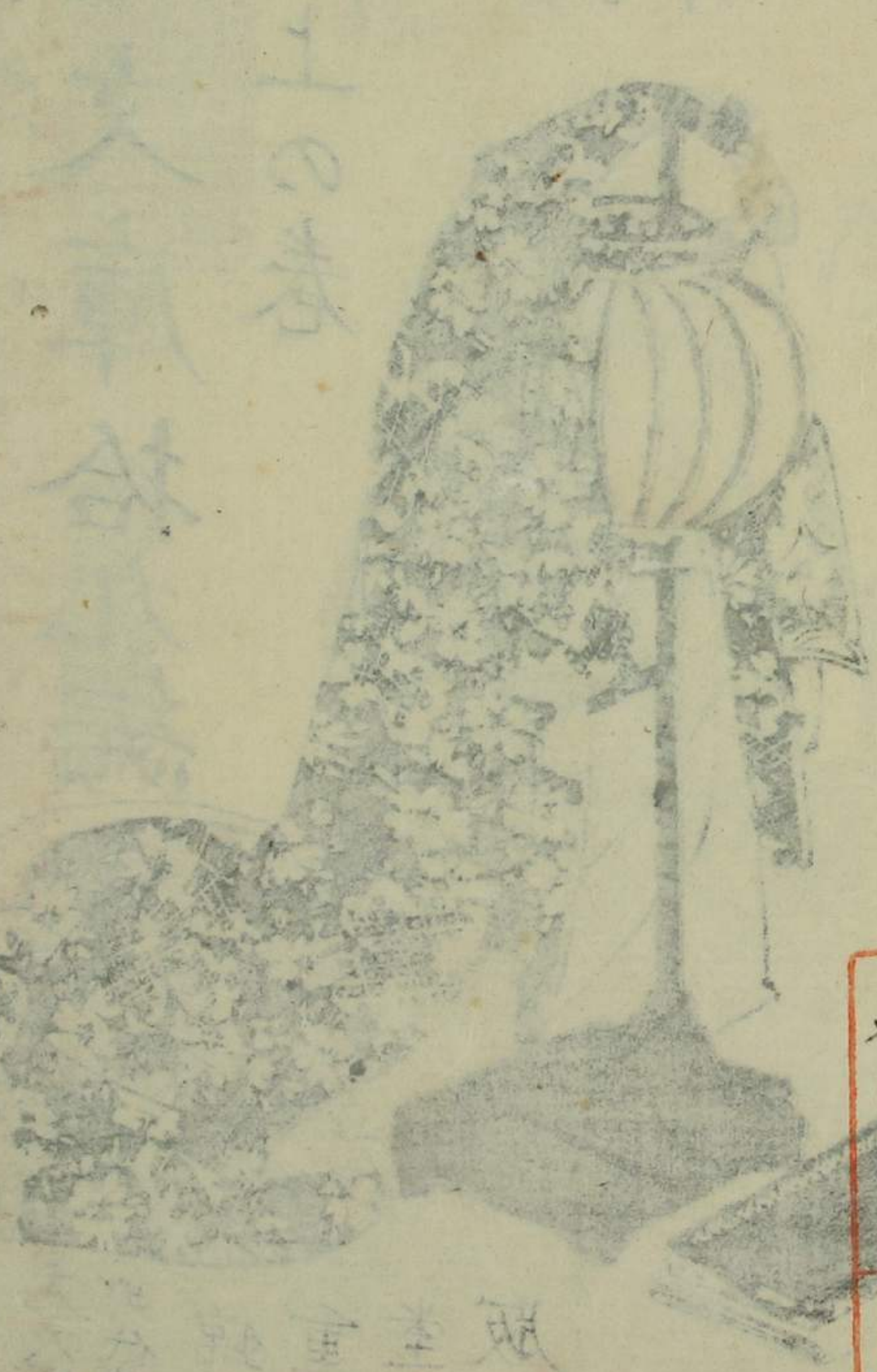
13
2944
7



へ13
2944

特

春林
春林



春林
春林

昭和九年
七月九日
購末

春林
春林

倭文庫拾九編

上の巻

辛亥

春

新梓

万亭應賀作
一陽齋豊國画



元大坂町代地
錦重堂版

貝
罎細色

倭文庫

十九編



万亭應賀作

一陽齋中画

錦重堂版

倭文庫

万亭應賀作



上

嘉永四年

辛亥春新刊

一陽齋曲豆國画

俗世文庫拾九編



下



版屋州上

後文

序

十九編

下の巻

美の長 上重はん



應賀作
壹國魚

月夕



釋迦八相倭文庫拾九編之序

夫出家を釈子又釈門と云その所謂如何意摩佛の御名ハ如の一字
より釋の氏中へ御名の如の字を連てり釋迦と稱をされ
ハ今江湖ハ出家と云て釋子とも釋門とも佛子とも唱え皆
これ釋迦の門乘たるを以てあり又或書ハ釈迦の二字ハ氏ハ
牟尼と佛の御名なりと云り開ハ左も右も扱此卷ハ天竺の名醫者
婆大臣の畧傳及び悉達太子雪山ハ上る道中ハ天女と靈鬼とを度
其功績と云るがた芋環るる愚ヲ卷ふと云くとも看
官を的小編して亥の年ハ新版されハと急ぎそラット合占と
端雄の矢猛心ハあらうと認む

嘉永四年辛亥春發市

万亭應賀誌

萬文庫



優陀夷の女房

耶輸陀羅女



頻婆沙羅王の
家臣天下の名醫

耶輸陀羅の自投
の願と即刻の平癒

耆婆大臣

優陀夷大臣



藝文傳



藝文傳

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、



一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、





梅女座十九
 此の如き事は
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり

梅女座十九
 此の如き事
 は昔もなかり
 し事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり



梅女座十九
 此の如き事
 は昔もなかり
 し事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり

梅女座十九
 此の如き事
 は昔もなかり
 し事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり
 昔もなかりし
 事なりけり
 今もなかりし
 事なりけり



應賀作の豊国画

此の豊国画は、應賀作の筆によるもので、江戸時代中期の浮世絵の代表的なスタイルを示している。画面には、二人の人物が描かれており、その服装や持ち物から、当時の生活様式や社会階級が窺える。背景には、自然の風景が簡潔に描かれ、人物の存在感を際立たせている。



この豊国画は、應賀作の筆によるもので、江戸時代中期の浮世絵の代表的なスタイルを示している。画面には、二人の人物が描かれており、その服装や持ち物から、当時の生活様式や社会階級が窺える。背景には、自然の風景が簡潔に描かれ、人物の存在感を際立たせている。



此の豊国画は、應賀作の筆によるもので、江戸時代中期の浮世絵の代表的なスタイルを示している。画面には、二人の人物が描かれており、その服装や持ち物から、当時の生活様式や社会階級が窺える。背景には、自然の風景が簡潔に描かれ、人物の存在感を際立たせている。

この豊国画は、應賀作の筆によるもので、江戸時代中期の浮世絵の代表的なスタイルを示している。画面には、二人の人物が描かれており、その服装や持ち物から、当時の生活様式や社会階級が窺える。背景には、自然の風景が簡潔に描かれ、人物の存在感を際立たせている。

この豊国画は、應賀作の筆によるもので、江戸時代中期の浮世絵の代表的なスタイルを示している。画面には、二人の人物が描かれており、その服装や持ち物から、当時の生活様式や社会階級が窺える。背景には、自然の風景が簡潔に描かれ、人物の存在感を際立たせている。

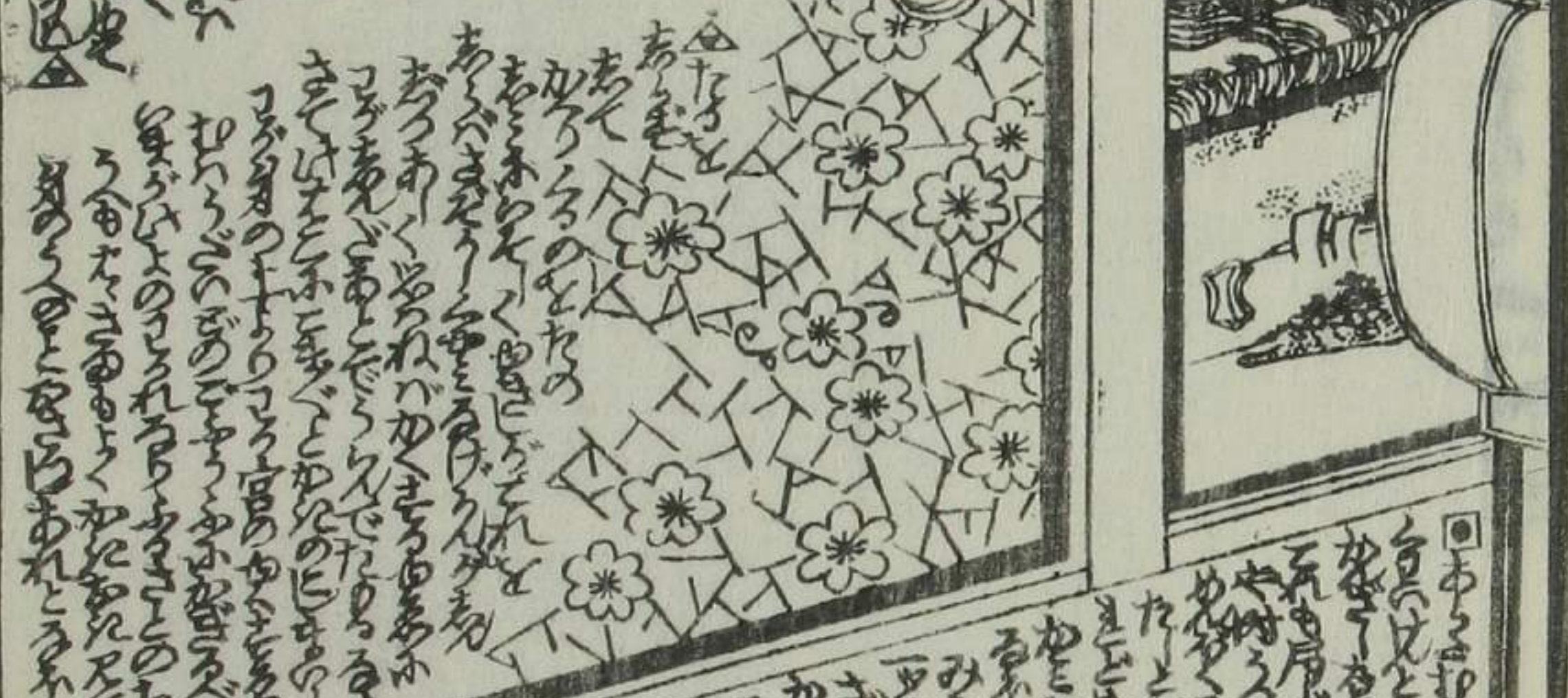
天竺の神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を



天竺の神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を
よびて来た神は天竺に居るが天竺を



Handwritten text in a vertical column at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the illustration below.



Handwritten text in a vertical column at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

Handwritten text in a vertical column at the top of the right page.



Vertical text on the right margin of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.



ついでに...
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。



ついでに...
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。



万亭應賀作 陽齋豊國画



倭の文庫

或拾編

牛の巻

辛亥

春

開市

万亭應賀作

一陽齋豊國画



尺
寸
書
經
白

元大坂町
代地
上州
屋板

夏此

錦
玉
堂
梓

五
海

屋
滿
登
文
庫
二
十
編

万
年
松
か
さ
く
新
川
と
よ
ら
ふ
あ
き

万亭應賀作

嘉永
四年
亥春
發兌



錦重堂版

下

倭文庫貳拾編



陽齋豊國画

上

又
婦
子
心
夢
國
玉



貝
國
細
玉

新
本
上
梓

釋迦八相倭文庫二拾編之序

此卷ハ老日波女大臣と阿私陀仙人妙術を施して耶輸陀羅女の金瘡を療治南花の邪鬼を躰したる瓶を背負せし男女連ハ色情を南無三寶の罰があつて真逆身不没落の谷底を地獄の谷もかきうぬと外る悪女ハ白蛇の如虚蛇をさうぬ因果の觀面杖悉達太子の雪山に登りて三業九品の勤行及び五定心と煉玉ハ諸天ハ飯命ハ妙舎利仙の御名と改め雪山罔梨の北真臺の寒苦の勤を魔道の女欲妃挽彼扶観と久の障碍をかせありさきをあらうとあふ著者也而已

嘉永四年辛亥孟陽

万亭應賀誌



倭文庫初編より七編迄

以度齋字とありて再板の了最上の小念をのりて再板の了最上の様え 錦直堂 欽白



優陀夷大臣

優陀夷の女房

面相と
観通と
身の禍と
解を示



維那里國香山の阿私陀仙
淨飯王の勅不應と轆曇彌
夫人耶輸陀羅女の

轆曇彌

阿私陀仙

悉達太子雪山の毘羅梵
 志仙ふ再會して雪山閣梨
 と御名を改め三業九品の
 御修行を勤め北真禪
 定臺の室小坐して五定心と
 煉

悉達太子の
 雪山閣梨
 閣梨



毘羅梵志仙





Handwritten Japanese text in the top margin of the left page, likely a title or introductory text.

Handwritten Japanese text in the bottom margin of the left page, likely a commentary or a continuation of the text.



Handwritten Japanese text in the top margin of the right page, likely a title or introductory text.

Handwritten Japanese text in the bottom margin of the right page, likely a commentary or a continuation of the text.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or a date.



徳川幕府

五



應賀作豊國画

一、此の山はとるの...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...







本庄文庫 下



本庄文庫 下

陽齋豊国画

万亭應賀作 陽齋豊国画



倭文庫 廿一編

万亭應賀著 陽齋豊国画

錦直堂



嘉永

四年

孟夏

万亭應賀作

倭文庫上格編



上

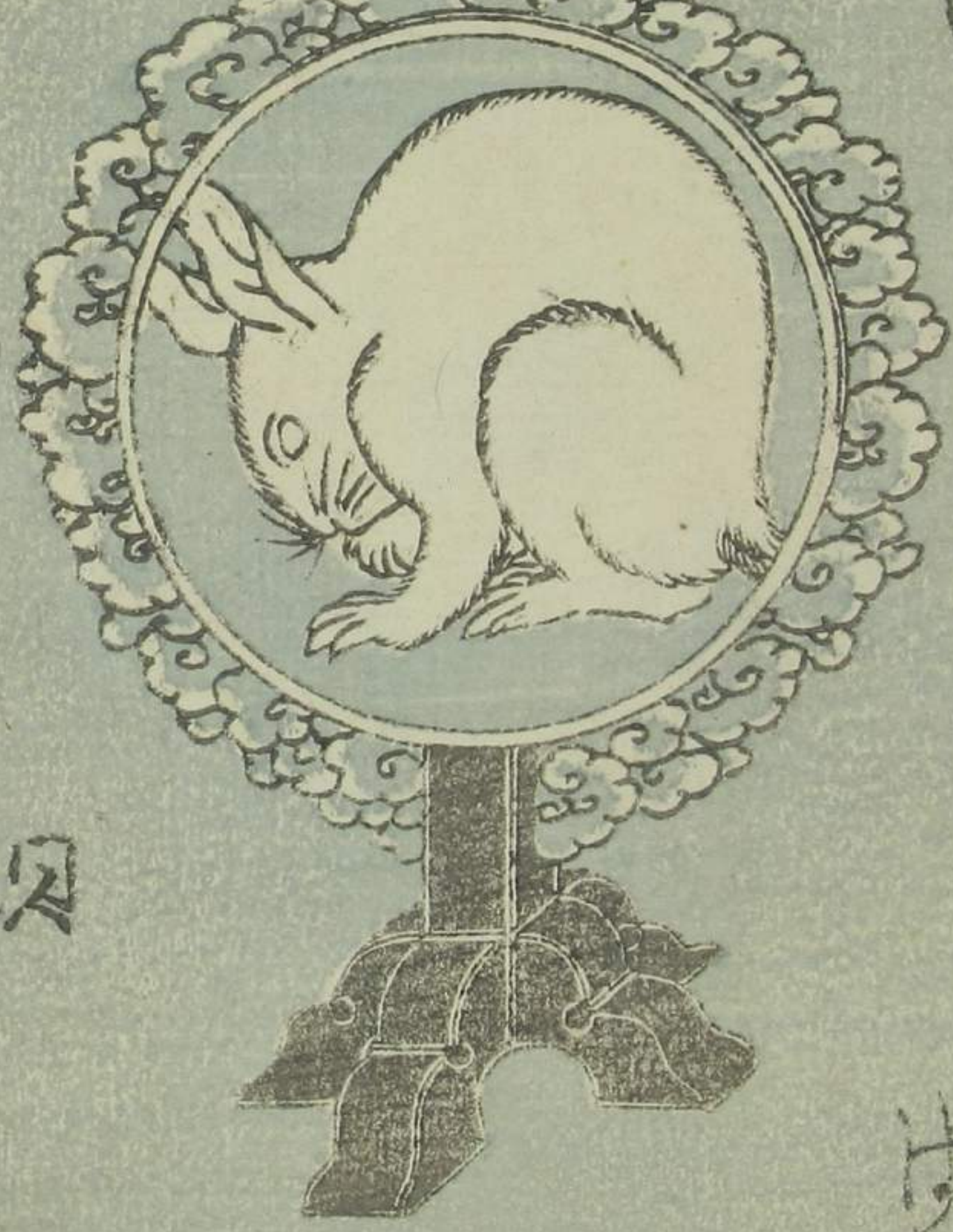
一陽齋豊国画



錦重 堂梓

下

座由也
 ぬんえ
 年
 海
 下のまき
 應賀作
 冬玉五



亥のまき
 冬玉五

冬玉五

釋迦八相俗文庫第二拾一編之序
 夫極善動天地極惡亦動天地され功利天の帝釋天兜摩摩貨多羅河
 修羅王の女合掃夫人を奪取依之合掃の鞞羅睺阿修羅大不怒て十六
 万六十由旬の天身不現下生涯の耻これ過むと四海の六軍をりて喜見城
 を責る帝釋六陣の隊と立守護をされと終六陣の軍乱て危けき了
 善法堂わく香世薫般若の空寂と講讀をせり天帝の合掃を連る
 須弥山(迦道)金翅鳥の卵ありこれと踏むと走れぬこの不殺生の徳
 小よるて金翅鳥の助を受一此説を諸經の中より抄出く若葉麥あはら
 ぬ姫刀称さちのお側へ出せ花はまきるぬ此巻の評判を先希ふ

嘉永四年辛亥
 孟陽吉辰發行

万亭應賀誌



浄飯王の御舎弟
白飯王の嫡男
阿難太子

花杖の娘
瞿陀弥女

阿難太子
の御舎弟



白飯王の嫡男
阿難太子
の御舎弟
阿難太子

浄飯王の御舎弟
甘露飯王の御代継
阿難太子

釋種の親族
花杖の娘
連太子の御舎弟
阿難太子



翅三百万の
金翅鳥

加那利天
帝釋天

帝釈天羅睺阿修羅乃
軍不追は不殺生の功徳を
請ふ

舎利夫人の尊
羅睺阿修羅



香蓮太子
雪山
關刺

阿修羅手
舎利夫人

Reddish text at the top of the right page, likely a title or introductory text.



Small text at the bottom of the right page, possibly a signature or date.

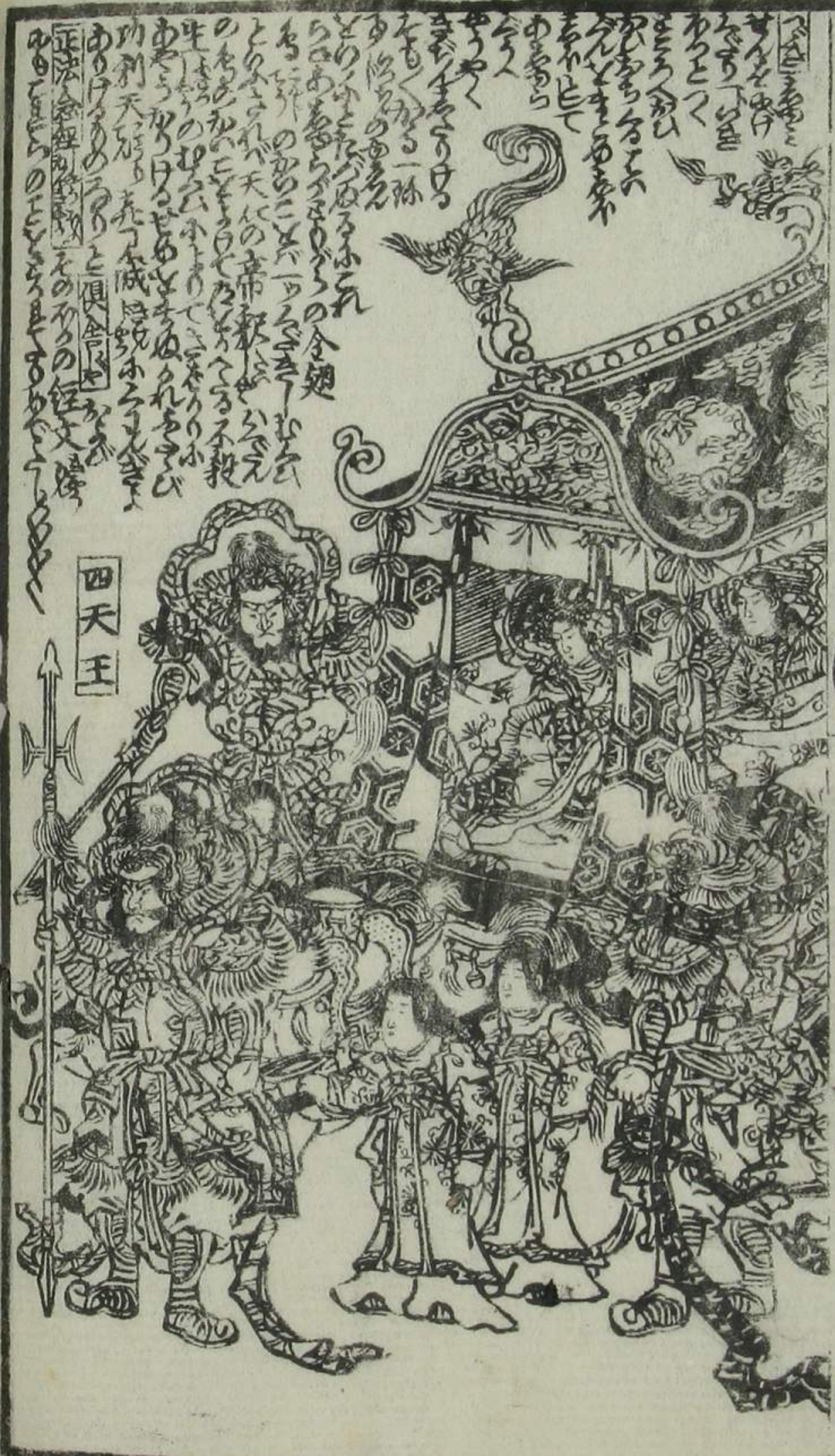
Reddish text at the top of the left page, likely a title or introductory text.



Small text at the bottom of the left page, possibly a signature or date.



万亭應賀作の陽齋豊國画



四天王

倭文庫

武松臺

編

上

辛亥ノ春

万亭應賀作

一陽齋豊國画



元六坂町代地角
上洲屋重藏板

尺
國編

